



Michigan Newsletter

September 2025

No. 12

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 日本文化への熱い視線！
サギノー日本祭り
2. ノバイ市での日本祭りでサムライの
聖地滋賀県を PR！

ページ 1～2

草の根交流

1. ノバイ市で響き渡った
「NAGAHAMA！」の声援
～長浜市の小学生がミシガン州でスポ
ーツ交流～

ページ 2～7

ミシガントピック

1. 保守派活動家殺害後の州内の
動き

ページ 7

経済交流

1. 日本文化への熱い視線！サギノー日本祭り

徳島市と姉妹都市提携を結んでいるサギノー市には、本格的な茶室と日本庭園を有する日本文化センターがあります。9月14日、今年で18回目となるサギノー日本祭が開催され、これまでで最大の1000名を超える来場者でにぎわいました。

滋賀県のブースでは、観光情報のPRとともに、徳島市の姉妹都市の皆さんに滋賀県との県州関係を知ってもらうべく、ミシガン産ドライチェリーを使用したブレンドティーであるミシガンティーの試飲を提供しました。他の同様の祭りとは大きく異なり、来場者は現地の方々がおほとんどで、日本人の来場者に出会わなかったのは驚きでした。サギノーバレー州立大学には日本語の副専攻があり、ミッドランド市内の高校には日本クラブがあるということで、参加者からは、日本語や日本文化を学びたいという意欲がひしひしと伝わってきました。彦根にあるミシガン州立大学連合日本センターのプログラムへの反応も上々でした。



この日本文化センター内にある茶室、「阿波鷺能庵」は、サギノー市民の協力を得て日本の職人によって作られています。ミシガン州でも随一の茶室で、しかも手ごろな価格で質の高いお点前が体験できるということで、この茶室がいかにかに人々を魅了し、交流の財産になっているのかが見受けられました。

2. ノバイ市での日本祭りでサムライの聖地滋賀県をPR！



9月28日、日系企業の集積を背景に、州最大の日本人コミュニティのあることで有名なノバイ市にて、デトロイト日本商工会主催の日本文化発信イベント「日本祭り」が開催されました。射的や輪投げ、書道のパフォーマンスや茶席もあり、イベントは終始大賑わい。家族連れ等の日本人の方も多く、滋賀県出身の方からも声をかけてもらいました。こういった日本祭りは、日本から駐在中の家族にとって、子供たちが楽しく日本文化に触れられる場としても貴重です。もちろん、彦根のミシガン州立大学連合日本センターに留学した、来年留学予定、といった方もたくさん足を止めてくれました。

今回、滋賀県のブースで特に力を入れて PR したのは、びわこビジターズビューローから提供いただいた、「[Sacred Land of SAMURAI 'Shiga, Japan'](#)」(SAMURAI の聖地・滋賀)」のパフレットです。サムライと関わりの深い県内 5 市町(大津市、甲賀市、近江八幡市、愛荘町、長浜市)の観光協会とびわこビジターズビューローが連携して作った、メディアでも注目のインバウンドツアーで、NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送や、安土城築城 450 年を見据えて作成されています。サムライだけでなく、忍者や巫女神楽体験、剣道体験、西の湖クルーズなど、幅広い内容となっています。サムライや忍者はわかりやすいコンテンツで興味を持ってもらいやすく、用意した 50 部はすぐになくなりました。



昨年は、この祭りのブースにて、滋賀県魅力発信協力員の方と一緒に近江の茶の試飲販売を行っていました。今回は関税の関係で近江の茶の在庫が少なく、販売はできなかったのですが、姉妹都市委員会のメンバーや、7 月の友好親善使節団参加者など、滋賀県が大好きなメンバーがブースを手伝ってくれ、200杯の近江の茶の試飲の提供に貢献してくれました。

草の根交流

1. ノバイ市で響き渡った「NAGAHAMA！」の声援 ～長浜市の小学生がミシガン州でスポーツ交流～

9月10日(水)～15日(月)、フラッグフットボールに取り組む長浜市の小学生 7 名が、引率者、サポーターらとともにミシガン州ノバイ市を訪問し、本場のスポーツ文化を体験するとともに、現地の小中学生とのフラッグフットボールの試合や学校訪問を通じて交流を行いました。

駐在員は、一年前から、ノバイ市職員との調整や両市のミーティング等の支援を行ってきました。ついに訪問を迎え、一部同行させてもらいました。主な訪問先を紹介します。

① 在デトロイト日本国総領事館



カナダとアメリカの国境があるデトロイト川沿いにあるルネッサンス・センター内にある、在デトロイト日本国総領事館を訪問。山根首席領事より、総領事館の仕事内容や自身の経歴の紹介後、長浜市の小学生からは、好きな食べ物や好きな都市、アメリカのいいところ等について質問がありました。

山根首席領事より、自身も住んでいるノバイ市が安全で教育水準も高く住みやすく、アメリカで一番良い都市と考えていること、アメリカにはいろいろな生き方をしている人がおり、どんな考え方の人でも生きていける自由度、懐の深さが好きであるとの答えがありました。



② ミシガン大スタジアムツアー

彦根市の姉妹都市であるアナーバー市に移動し、ガイドツアーによりミシガン大学のスタジアム見学。このスタジアムはアメリカで最大のスタジアムとして知られ、収容人数は約 10 万 7000 人！「ザ・ビッグ・ハウス」という愛称でも親しまれています。彦根市とアナーバー市の姉妹都市協定提携 50 周年を迎えた 2019 年に、ひこにゃんが訪れた場所でもあります。



フィールドでの自由時間で気分転換後、ビップルーム、選手のロッカールーム等を見学しました。

【もっと知りたい人へ ミシガン州ノバイ市】

- ・アメリカ合衆国ミシガン州オークランド郡の都市。デトロイトの中心部から北西に 40km、車で 45 分弱の郊外に位置。治安がよく、教育水準も高いことから、郊外の住宅地として人気。
- ・人口約 6 万 6000 人。アジア系の住民が全体の 25.5%。(2023 年センサス)
- ・約 750 名の日本人幼稚園児・小学生・中学生・高校生が土曜日に通学するデトロイトりんご会補習校が立地。
- ・市は日本企業、日本人コミュニティへのサポートに熱心。日本の自治体と友好関係を結ぶことにも高い関心。
- ・ミシガン州に進出している日系企業 449 事業所のうち、102 事業所がノバイ市に立地。
(2023 年 10 月現在／在デトロイト総領事館 HP) ず。

③ ノバイメドウズ小学校とのフラッグフット交流

ノバイ市にアレンジいただいたノバイメドウズ小学校を訪問。7名の現地小学生と先生方が温かく迎えてくれました。双方が自己紹介をし、長浜市の小学生は、英語で書いた自己紹介カードを手渡しました。このカードの裏面には長浜市の観光地等が写真で紹介されており、市のアピールも同時に行いました。

この小学校は、北・南米で初めて、6年生の授業にロボット工学を取り入れたことでも知られており、ロボットのプログラミングを勉強中の生徒たちの様子や、将来企業で働くときのオフィスをイメージした、教室外で生徒たちが勉強や作業に使うフリースペースを見学しました。

その後、フィールドに出て、ウォーミングアップ、円の中でフラッグを取り合う個人戦を行いました。コーチのわかりやすく楽しい指導に、緊張も忘れ笑顔でフィールドを駆け回りました。一緒に体を動かした後は、テーブルを囲みスクールランチ体験。長浜市の小学生がプレゼントした日本の駄菓子と、ノバイメドウズの小学生が持参していたアメリカのお菓子を食べ比べる場面もありました。



初対面で少し緊張気味の自己紹介。



ロボット工学の授業を見学。



高さが変わる椅子を座って体験。



フィールドでウォーミングアップ。



練習開始！

【もっと知りたい人へ ノバイ・コミュニティ学区 ノバイメドウズ小学校】

- ・ミシガン州では、学校区によって、幼稚園～12年生の学年の区分は異なるが、一般的には、小学校(幼稚園、1～5年生)、中学校(6～8年生)、高校(9～12年生)に分かれる。
- ・これに対し、ノバイ・コミュニティ学校区は、小学校(幼稚園、1～4年生)、上級小学校(5、6年生)、中学校(7、8年生)、高校(9～12年生)となっており、小学生から中学生への急な変化に対応できるよう、小学校を2つに分けて手厚い教育を行っている。
- ・ノバイ・コミュニティ学区は、小学校(5)、上級小学校(1)、ノバイ中学校(1)、ノバイ高校(1)の計8校を管理。小学校は5つに分かれているが、上級小学校以降は市内のすべての生徒が一か所に通学。
- ・今回訪問したノバイメドウズ小学校はこの上級小学校に当たり、5、6年生の2学年で約1000人が在籍。

④ ノバイ中学校とのフラッグフット交流

小学校での交流の後は、ノバイ中学校に移動し、中学生のフットボール部、ホッケー部、バレー部のメンバー混成チームとのウォーミングアップおよび試合を行いました。

試合の前半は、ノバイ中学校の生徒と長浜市の小学生を混ぜてチームを作り対戦。後半は、ノバイ中学校の生徒と長浜市の小学生に分かれて試合を行いました。長浜市の小学生がノバイ中学校の生徒と直接試合をすると、負けてショックを受ける子が出てくるかもと長浜市側コーチが心配していたにも関わらず、長浜市の小学生は積極的にプレーし、笑顔で試合を終えました。同中学校の複数のクラスの生徒が応援に駆けつけてくれ、観客席から、「NAGAHAMA!」「がんばれ!」と大きな声援が送られ、うれしいサプライズでした。対応していただいた中学校の先生方の温かさを感じました。



手作りのポスターで出迎えてくれたノバイ中学校の生徒と。



試合後、達成感でいっぱい！



フィールドで作戦タイム。



NAGAHAMA！と声援の上がる観客席。

⑤ ミシガン州立大学スタジアムにてアメリカンフットボールの試合観戦

大津市の姉妹都市でもある、州都ランシング市にて、ミシガン州立大学対ヤングスタウン州立大学の試合を一時間ほど観戦しました。本場の試合観戦という今回の事業の目的の一つです。試合はもちろん、大学のマーチングバンドや観客の応援スタイルを間近で見るなど、アメリカンフットボールの魅力を肌で感じる体験でした。



この企画は、地方自治体と大阪・関西万博参加国の子どもたちや住民等との間での幅広い分野での国際交流の取組、「万博国際プログラム」の一つとして計画され、昨年、長浜市がミシガン州内で受け入れ先を探していた際、快く協力を申し出てくれたのがノバイ市の皆さんでした。事前準備から訪問先の手配など、多大なサポートを頂きました。また、当日迎え入れてくれたノバイ・コミュニティ学区の先生方、生徒の皆さんが、長浜市の小学生の子どもたちの夢を育む場を与えてくれました。

同行中、ノバイ市長からは、滋賀県の自治体からの視察や訪問は今後も大歓迎なので、興味があればぜひ声をかけてほしい、との寛大なオファーをいただきました。また、カルデナスシティマネジャーから長浜市あてに送られた感想の一部を抜粋して紹介させていただきます。

「この交流を通して、グローバルなつながりを築くことの大切さを再認識しました。私たちのような都市は、国境を越えて他者から学ぶことで、より強くなります。長浜市の小学生たちを迎え入れることは、単に私たちのコミュニティを彼らと共有することだけではありません。私たちがはるかに大きな世界の一部であり、たとえ数日間でも友情と理解を育むことができることを改めて認識することでもありました。」

ときにあどけない、まだ小学5、6年生の皆さんが家族と離れて渡米し、引率者やコーチと一週間過ごす、というのはそれだけで大冒険だったと思います。フラッグフットボールの本場であるアメリカでの「ホンモノ体験」は、皆さんの心にどう残り、これから芽を出していくのでしょうか。

州内で活動していると、学生の時に姉妹交流事業でミシガン州を訪れ、ミシガンが大好きになり、勉強や仕事をしにミシガンに戻ってきた、という滋賀県出身の人たちによく出会います。皆さんのこれからの活躍の場はもちろんミシガン州にとどまるものではないですが、今回、長浜市の団の一員として、長浜市とアメリカの橋渡し役となり現地の学生達と交流した体験を通して、これから視野を広げ、自分たちの市の地域や文化にさらに目を向け、誇りを持ってもらえたらと思います。

私個人としても、これまでいろいろな姉妹交流に関わらせてもらってきましたが、長浜市の小学生の皆さんに夢を与えるこの事業に関わらせてもらえたこと、長浜市出身の県職員の一人としてうれしい限りでした。

訪問した現地の小中学生の皆さんや、大変お世話になったノバイ市職員の皆さんと、また会おうね、と別れた長浜市の小学生の皆さん。皆さんがノバイ市で築いた友情やつながりが、今後の両市の交流につながっていけばと思います。

ミシガントピック

1 保守派活動家殺害後の州内の動き

保守派活動家で、トランプ大統領の支持者であるチャーリー・カーク氏がユタ州のユタ・ヴァレー大学のイベントで暗殺された事件は、日本でも大きく報じられました。その翌日、9月11日(木)早朝、ガーリン・ギルクレスト州副知事の自宅へ爆破予告がありました。警察による迅速な対応の後、同日夜、副知事は自身と家族は無事である旨発表。声明の中で、「今は非常に恐ろしい時期です。この暴力の目的は、人々とその声を社会から沈黙させ、脅迫し、排除することです。」「私たちは政治的暴力を容認することはできません。私たちはこの状況を乗り越え、より良い方向へ進むために努力しなければなりません。」と呼びかけています。

副知事だけでなく、ミシガン州の民主党議員2人が、警察の介入を必要とする爆破予告を受けたと発表しており、さらに、別のミシガン州民主党議員2人が、州議会でカーク氏のための祈祷中に座っていたとされる映像が保守系インフルエンサーによって拡散され、誤解を招き、自身や家族への数えきれないほどの脅迫と殺害予告を受けたと訴えています。

この事件が起こる前の6月、ミネソタ州議会の議長と議員とその家族が襲撃され、民主党所属の州下院議長とその夫が殺害される事件が発生していました。容疑者がミシガン州および中西部4州の当局者を含む標的候補のリストを作成していたと報じられており、今回の事件をきっかけに、さらに政治的暴力が激化する可能性があります。

こういった殺害予告や脅迫は、政治家だけでなく、学校の先生や店の従業員など、一般の人達にも広がっており、暴力や恐怖で政権に迎合しない発言が封じられていく風潮を危惧する声も多く聞かれています。